

図書館だより



No.199



2016(平成28)年3月12日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Te1 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<https://www.library.fks.ed.jp/>

◆ 展示のお知らせ ◆ 展示コーナー

「東日本大震災5年展」



～あのときそしてこれから～ 4月6日(水)

東日本大震災が発生してから今年で5年となります。震災を振り返り、忘れずに未来へ伝えていくため、当時の新聞や写真パネルなどを展示しています。また、その後の復興に向けた活動を掲載した図書や写真集なども紹介しています。

とと姉ちゃんと「暮らしの手帖」

4月8日(金)～5月5日(木)

4月から始まる朝のNHK連続テレビ小説「とと姉ちゃん」に合わせ、暮らしの手帖社を創業した大橋鎮子と花森安治をご紹介します。また、創刊号から所蔵している「暮らしの手帖」のバックナンバーを展示します。

◆ 各種展示 ◆

◆ ～4月6日(水)

《時事展示》

- ・観光立県をめざして

《ミニ展示》

- ・はじまりの春 あなたも〇〇デビュー
【展示コーナー前】
- ・活気ある地域づくりへ
【調査相談カウンター付近】
- ・音楽雑誌特集 春をよぶ音色
【軽読書コーナー】
- ・春の絵本 【こどものへや・絵本コーナー】

下記展示は期間が異なります。

- ・30年読み継がれた名作絵本
【こどものへや・絵本コーナー】

※4月8日(金)～5月5日(木)

◆ ロビー展示 ◆

- ・翡翠(カワセミ)～4月6日(水)
- ・中村勢津夫 色鉛筆の世界
4月8日(金)～5月5日(木)

◆ イベントのお知らせ ◆

赤ちゃんと保護者のための「ちいさなおはなしかい」
4月14日(木) 10時30分～11時
場所：こどものへや〈入場無料・申込不要〉

新設「特殊文庫・貴重資料 紹介コーナー」

特殊文庫紹介コーナーでは、当館所蔵の特殊文庫の一部を、お手にとってご覧いただけます。また、貴重資料紹介コーナーでは、4月6日(水)まで佐藤文庫の貴重資料を展示しています。今後は展示内容を変えながら、貴重資料をご紹介します。

新設「本のひろば ～県立図書館セレクション～」

当館が発行しているパスファインダー「本の森への道しるべ」掲載資料などを、季節や時事に合わせひとつのテーマを設けて展示します。

4月6日(水)まで、「震災ストレスを考える」、「メディアはどう伝えたか」など8つの視点から、震災関連資料を展示・貸出しています。

「長田弘文庫」開設予定

昨年5月に75歳で亡くなった福島市出身の詩人・長田弘さんの蔵書が当館に寄贈されることになりました。和書が約6700冊、洋書が約1600冊あります。平成28年度内に、「長田弘文庫」として開設予定で、整理を進めています。

各コーナーの場所については、新しくなりました館内案内図をご覧ください。



新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『内山節著作集 11 子どもたちの時間』内山節／著
農山漁村文化協会 2015.1 108/㊦ 147/11

東京と、群馬にある山村の二重生活をしている哲学者、内山節氏の著作集です。

かつて山村の子どもたちは自然との暮らしの中で、「小さな村人」として役割を与えられ、生きるために必要なことを学んできました。しかし現代の暮らしや学校教育の影響により、かつて山村にあった時間感覚が失われたとき、他者とのかかわりや生活のスキル、主体性すらも失われてしまったのではないのでしょうか。現代社会がかかえる問題を、時間と子どもたちの成長の視点から考える著作集です。

『野生動物カメラマン』岩合光昭／著 集英社
2015.12 480.4/㊦ 15Z

世界中の人々を魅了する野生動物カメラマン・岩合光昭氏の撮影秘話をまとめた一冊。長年の経験で培われた撮影時の心構え、“ヒトとしての視点を取っ払って、自然の中で生き生きと暮らす野生動物のあるがままの姿を見る”、“出会った動物たちを見て、撮りたいと思ったものを撮っていこう”、“「相手を知りたい」と思う気持ちで動物たちと対峙したい”などなど、野生動物たちへの並々ならぬ想いが綴られています。多くの写真と、その写真が撮られた舞台裏を楽しめる一冊です。

『ポートフォリオをつくろう！ 新しい自己PRのための「編集デザイン」』青山学院大学大学院社会情報学研究科ヒューマンイノベーションコース／著
フィルムアート社 2015.7 377.9/㊦ 157

ポートフォリオとは何かご存じでしょうか？本来は大きな平面を収納できるケースを意味する言葉ですが、近年、自己の作品集や自分を宣伝・紹介するファイルという意味で使われており、大学入試や企業の就職活動でも使われるようになっていきます。本書はポートフォリオの作り方・作る意義を、順を追って解説しています。新しい自己PRの手段として、自分を知るツールの一つとして作成してみたいはいかがでしょうか？

児童・児童図書研究

日本を代表するファンタジーであるコロボックル物語シリーズ。誕生から半世紀を越えて、新たな物語が生まれました。

『だれもが知ってる小さな国』有川浩／作
村上勉／絵 講談社 2015.11 913/㊦

佐藤さとる氏に「当代一流のストーリーテラー」と評される著者が、養蜂家の子どもたちを主人公に、コロボックルの世界を書き継ぎます。

『コロボックルの世界へ』佐藤さとる／監修
講談社 2015.11 J913.6/㊦

登場人物紹介から作者インタビューまで、様々な視点からシリーズ全6冊を読み解きます。

雑誌・新聞

東日本大震災の日から5年が過ぎました。過去と未来の間に立ち、様々な思いが生まれています。

今回は新着資料から、各誌の特集を紹介します。

*特別企画 震災5年—再生への道

『潮』2016年3月号 Z/501/U1

*特集 震災から5年 「集中復興期間」の後で

『世界』2016年3月号 Z/051/S1

*特集 チェルノブイリ30年 福島5年

『DAYS JAPAN』2016年3月号 Z/051/D7

*特集 原発災害・避難から5年

『教育』2016年3月号 Z/370.5/K20

*特集 東日本大震災から5年

『働く広場』2016年2月号 Z/366/H7

*震災5年 識者に聞く

『福島民友』2016年2月20日1面から連載

*「3.11」から5年 復興を問う

『福島民報』2016年2月11日1面から連載

*震災5年 原発事故のあと

『読売新聞』2016年2月23日1面から連載

*福島第1原発事故 5年目の真実

『産経新聞』2016年2月23日1面から連載

地域

『沙羅沙羅越え』風野真知雄／著
KADOKAWA 2014.6 LA913.6/A4/55

織田信長の死後、秀吉方との戦いに苦戦していた佐々成政は、家康へ援助を求め、会いに行くことを決意しました。敵地を通らずに済む道は立山を超える道しかありません。しかし、季節は冬。芦峯寺の仲語の協力を得て、家臣20名程度とともに、猛烈な吹雪の中、飛騨山脈・立山連峰を富山側から信州へ越え、三河へと向かいます。決死の覚悟で臨んだ「さらさら越え」を題材にした歴史小説です。

本作品は、第21回中山義秀文学賞受賞作品であり、著者は須賀川市出身。本県出身者が中山義秀文学賞を受賞するのは初めてのことです。

『道の駅2016』ケイセイセイ／[編]

ケイセイセイ 2015.11 L291.09/K10/5

単なるドライブの休憩所というだけでなく、地域文化の発信地としても存在感を放っている道の駅。県内の主要な27駅について、駅のイチ押しグルメや地域の特産品を活かした人気商品等を豊富なカラー写真と共に掲載しています。駅長自ら紹介するおすすめ観光スポットも見所です。

いよいよ待ちに待った雪解けの季節。春の陽気を感じながら、少し遠出をしてみたいはいかがでしょうか？